

# 院長の独り言

～負担重い『名もなき家事』とは～



毎日新聞の『負担重い「名もなき家事」』という記事を読むまでは、「名もなき家事」という言葉を知りませんでした。一級建築士・多田綾子さんが使い始めたところ、妻たちの共感を呼びました。彼女の説明を引用します。『「家事」と言うと、掃除や洗濯、料理、ゴミ捨てなどの「名のある家事」がまず思い浮かぶと思います。家事を減らそう、分担しようとしてもなぜかひとりの負担が減らない場合が多いのです。それは、分担に漏れがあるせいでした。この漏れが「名もなき家事」です。例えば「ゴミ捨て」をする前には「ゴミの分別」があり、そのあ



とには「ゴミ袋を取り替える」などの作業があります。他にも「脱ぎっぱなしの服をクローゼットにかける」「不要なチラシを捨てる」など、「名もなき家事」が家事に対する負担感を強めていたのです。』妻に指示されたものを買ったり「ゴミを捨ててきて!」と言われて捨てるに行ったりすることは、単なる妻の手伝いであって家事ではありません。時間がかかって面倒なのは、むしろ炊事・洗濯・掃除な

どの家事よりは、食材を買いに行くとか、不足している洗剤を補充して洗濯物の分別をして、乾いた洗濯物を家族別に収納するとか、洗った食器を乾かして元あったところに収納するなどのことです。夫がたまに家事をしても、そのあとの収納がいい加減ですと、妻の家事負担は少しも減らないどころか、むしろ増えることもあります。2016年社会生活基本調査では、6歳未満の子のいる家庭の1日の家事関連時間は、妻7時間34分:夫1時間23分。そのうち育児は妻3時間45分:夫49分でした。家事は子どもも含めて家族全員の仕事であることを認識しましょう。妻の指示で夫や子どもが動くということでは妻の負担が減りません。

多田さんは最後に家事を行った人に「ありがとう」と感謝の言葉をかけることが最も重要だと言っています。当たり前だと思うことに感謝の気持ちを表して、家族全員で家事分担をすることが理想だと思います。

妻:7時間34分

家事を行った人にありがとうの言葉をかけましょう。

夫:1時間23分